



第297回 9月定例会

寺院群を生かして魅力的なまちづくりを

議案14件、市会案3件を可決・承認・同意

—平成9年度各会計決算認定は継続審査—

第二百九十七回定例市議会は九月九日に開会され、理事者から提出された議案十六件と市会案三件等を審議しました。

初日は、会期を二十四日までの十六日間と定めた後、平成十年度一般会計補正予算案をはじめとする十五議案についての提案理由説明が行われました。

十六日には、一般質問が行われ、

竹内安注（政友会）、畑中章男（友心会）
雨塚忠夫（清風会）、村西利栄（政友会）
米村輝子（友心会）、本田 章（政友会）
栄 正夫（共産党）の七議員が、

また、十七日には、

岡田高大（政友会）、千藤弘一（友心会）
笹島彦治（政友会）、谷口彰三（政友会）
浦井智治（共産党）、野田幾久代（無）
の六議員が、それぞれ質問に立ちました。

質問終結後、平成九年度の決算認定議案を審査するため、決算特別委員会を設置し、引き続き請願・陳情が上程され、初日上程の議案とともに所管の各委員会に付託されました。

最終日の二十四日には、各委員長報告の後、議案等の採決が行われ、議案十三件はいずれも原案のとおり可決・承認・決算認定議案二件は、継続審査と決しました。

続いて、人事に関する追加議案一件に同意しました。

最後に、意見書提出にかかる市会案三件を可決し、閉会しました。

また、皆さんから提出された請願・陳情の審議結果は、別掲のとおりです。

市政をきく 一般質問から

若者の定着対策について

問 ①超高齢社会を迎え、人口減少の歯止めや労働人口確保について、どのような施策を考えているのか。

②核家族化が進む中、市営住宅の建設計画はどのように考えているのか。

答 ①人口の減少に歯止めを掛け、労働人口確保は、重要な課題として認識している。

若者が地元で働きたくなる、魅力的な職場を創出する必要がある、そのためには、中部縦貫自動車道の開通も視野に入れながら、引き続き優良企業の誘致に努めるとともに、新技術開発企業の育成や、産業の大野産品づくりに対する支援等、地元企業の育成・振興を図りたい。

また、ハローワークや商工会議所と連携して、新規高等学校卒業生就職問題懇談会、地元企業サマー求人企業説明会などを積極的に実施し、新規学卒者の確保に努めたい。

さらに、若者が地元で定着するような、魅力あるまちづくりを目指したい。

②市営住宅の充実を図るため、本年十二月完成を目指し、中核地区に建設している。

今後は、人口の減少が著しい市街地に街並み再生と若年人口の増加を目指したインフィル型公営住宅の建設を考えている。

また、北部第三土地区画整理事業地内に、若者定着対策として、魅力ある公営住宅を整備したいと考えている。

公共事業の請負契約の在り方について

問 ①請負契約における情報公開はどうなっているのか。

②行政改革の一環として、設計監督・工事発注・契約担当部署を分離すべきではないか。

答 ①指名業者選定委員会を中心に、事前・事後の公表時期、公表価格の種類、庁内の準備体制等について、地方自治法および同施行令との整合性、公表による長所・短所等の問題点につ

いて、検討を重ねている。
②発注課で、設計・入札・契約事務、そして監理・監督業務を一貫して行っており、業務の分離は、機構および人員の面からも検討していきたい。

農政問題について

問 ①農業就業人口の年齢構成の実態はどのような状況か。

②高齢化、後継者不足などで稲作経営が厳しい今日、具体的な施策を考えているのか。

答 ①農林業調査による農業就業人口を十年前と比較すると、減少しており、高齢者人口は著しく進んでいる現状である。

②農業を維持する受け皿が必要となるため、農地の流動化を進めた中核農家育成、集落営農を推進した計画的な作付体系のも

とに機械・施設の共同化による生産原価の低減、中核農家や担い手農家を育成しながら農作業の受委託を容易にする。

さらに、農業生産法人や農事組合法人を育成して離農者等の農地を集積・維持する等の施策を講じている。

また、健康な高齢者が、長年にわたり蓄積した経験や技術を生かし、生きがいを持つ場づくりを、農協や普及所と協議し、方策を考えていきたい。

国道一五八号の整備と西部アクセス道路の対応について

問 ①一日も早い実現を目指し路線の決定を考えるべきではないか。

②犬山地係より亀山に至る道路の着工はどうなったのか。
③西部アクセス道路を最重要課

題として、先行して取り組んでどうか。

答 ①福井方面からの進入路として、重要な道路であると認識している。

西部アクセス道路も関係機関と十分協議し、都市計画決定に向けて努力している。

②犬山地係の土地の有効利用を優先的に考え、福井県が買収済みの用地から亀山南をう回するルートで六間へ接続するよう考えている。

有終西小学校の扱いについては、事務担当者間で方策を模索している。

③本道路をシンボル道路と位置付け、沿道のまちなみ環境、景観に配慮した整備を進め、亀山周辺地区を大野らしい、後世に誇れるまちとして構築したいと考えている。

審議日程

- 9日 本会議
(会期の決定、大野地区消防組合議員の補欠選挙、議案上程・提案理由の説明)
- 10日 休会
- 15日 本会議
(一般質問)
- 17日 本会議
(一般質問、決算特別委員会の設置・委員の選任、請願・陳情上程、各案件委員会付託)
- 18日 常任委員会
(建設・産業経済)
- 19日 休会
- 20日 常任委員会
(総務・教育民生)
- 22日 特別委員会
(中部縦貫自動車道等整備促進)
- 23日 休会
- 24日 本会議
(各委員長報告・質疑・討論・採決、追加議案上程・採決、市会案上程・討論・採決)



市長のポリシーについて

問 ①八年余りの政治経験を踏まえ、将来の大野の姿をどのように考えるのか。

②大高跡地の活用はどのように考えていくのか。

③健康保養施設とファミリーリゾート休養施設の競合と採算性について、どう予測するのか。

答 ①越前大野と聞くだけで、全国に本市がイメージできるまじにしたいと考えている。

二十一世紀を担う人づくり、若者が住みたくなる、お年寄りが安心して住めるまちづくり、環境保全と美しい景観づくり、情報・人・物の交流網づくりの五つの柱を軸に、力強く、やさしく、美しい大野を実現するための施策を展開するとともに、

決算特別委員会を設置

平成9年度大野市各会計決算を審査するため、決算特別委員会が設置されました。

- | | |
|------|------|
| 委員長 | 副委員長 |
| 砂子三郎 | 栄正夫 |
| 委員 | |
| 米村輝子 | 山秀一 |
| 笹島彦治 | 間源治 |



完成間近い「うらら館」

行政改革と健全財政を推進し、来たるべき地方分権時代に即応していきたい。

②歴史・文化のまちづくり拠点として位置付け、伝承・交流・接客をテーマとし、市民が誇りを持ち、来訪者に魅力的な拠点形成を目指す計画である。

計画実現のため、土地所有者と協議を進めるとともに、市民にも活用方法についての意見を聞き、整備計画を策定したいと考えている。

③健康保養施設は、健康増進や余暇利用等に、気軽に利用できる施設として整備したい。

なお、ファミリーリゾート休養施設は、多様な余暇活動、快適な休息の場、温浴を兼ねた施設であり、利用者も異なり競合しないと考えている。

健康保養施設は、プール、風呂等で年間十三万五千人の利用

で、収支の均衡が図れると予測している。

一方、六呂師高原には年間約二十一万人の観光客を訪れており、収支の均衡が図られる七万人以上の利用客は可能であると考えている。

公社営畜産建設事業について

問 ①上庄地区に設置した堆肥施設は、委託先の上庄農協へ引き渡し完了したのか。

②管理運営経費が当初計画と相違があるのではないか。

③製品の製造量は計画の七十パーセント程度でないか。

答 ①堆肥センター構想は、公社営畜産基地建設事業として採択され、早期建設に向け努力したが、用地確保が困難となり分散型で整備することになった。

堆肥製造施設は、平成七年度に着手し、八・九年度で製造関係施設が完成し、本年度の製品等収納庫整備により一連の事業が完了する予定である。

②当初計画より若干の増加が見込まれるが、機能調整を参考に試算しており、流動的な要素がある。

今後の管理運営は、当初計画のとおり、平成八年に締結した

『堆肥製造施設の管理運営に関する契約書』に基づき、酪農協同組合、養鶏組合、大野市・上庄両農協の四団体に委託する予定で、現在協議を行っている。

③大野養鶏団地の施設建設断念により、乾側の一次処理乾燥鶏糞を副資材として使用することとなり、乾燥鶏糞施設の生産量の差などで減少した。

社会福祉事業について

問 ①介護保険認定を広域で行う方法、具体策、進ちょく状況について聞きたい。

②介護保険の適用外者数はどの程度と予想し、支援策はどのようになっているのか。

③市独自で障害者計画等の策定が必要だと思いが、取り組みはどうか。

④現状の各施設、各制度の介護基準に差はないのか。

⑤介護保険の啓発活動はどのように実施するのか。

答 ①介護保険の保険者は市町村であり、近隣市町村間で保険料、サービス、認定・審査・判定等に格差が生じる恐れがあるが、広域的な対応により、要介護認定における事務処理の平準

化・公平・中立性が図られ、保

険料やサービスの平準化が可能となり、保険財政の安定化の効果が期待できると考えている。

また、二市一村の介護保険関係事務担当者で構成する、奥越介護保険共同化事業推進協議会を設立する運びとなっている。

②予想はできないが、対象外者は非常に少ないと思われる。

対象外者に対するサービスの費用についても、介護保険事業計画および老人保健福祉計画策定で明らかにし、福祉の後退にならないように努めていきたいと考えている。

③国は「障害者対策に関する新長期計画」を策定、地方公共団体でも計画の策定が努力目標となっている。

地域の特性に応じた多様な施策を展開することが必要であることは十分認識しており、平成十一年度に計画の策定を予定している。

④各施設の管理運営や専門職員の配置状況は、毎年、県の指導監査により、国の基準等に基づいて適正に運営されていると考えている。

今後、各施設へ出向き、実態を十分把握して改善されるよう対処したい。

⑤介護保険制度の周知徹底を図ることは重要な業務と捉えており、いろいろな機会でも啓発活動を推進していきたい。

救急搬送について

問 勝山病院への直接搬送について、取り組みの経過と結果について聞きたい。

答 地域医療体制整備充実の方策として、地域医療協議会や休日急患診療所運営協議会で協議を重ねた結果、かかりつけ医師が勝山病院である等の条件を満たせば直接搬送が可能である。



道路網の整備について

問 ①東縦貫線建設に向け、積極的な要望を行ってはどうか。②西部アクセスの事業主体の決

定はいつごろになるのか。
③中部縦貫道に関連した大野インター線建設用地の先行取得を行ってはどうか。

答 ①東縦貫線は国道一五七号バイパスとして位置付けられ、中部縦貫自動車道の交通の受け皿として、関係沿線集落の理解と協力を得て、四月二十一日に都市計画決定された。

県は、大変重要な路線として認識しているが、距離が長く、総事業費が莫大なため、県全域での調整期間が必要である。

しかし、地元の熱意等を考慮し、早期の事業認可に理解を示しているところである。

県に対し、関係者の協力も得ながら、積極的に要望活動を重ね、早期着工を目指し、実現に向けてまい進したい。

②本市の西側からの進入路として、重要な道路として認識しており、大野らしい景観に配慮した象徴となる道路として、スムーズに市街地へ誘導しなければならぬと考えている。

今後の整備は、線形や、財源等を十分考慮し、関係機関と協議を図り、都市計画決定の作業を進めたい。

また、本市に最も有利になるような機関が、事業主体となるよう働き掛けていきたい。

③事業主体が決定していないため、さまざまな視点から考える

と、インター線建設用地の先行取得は有利な方策とは言えないが、地元関係者の要望や関係者等の条件が整えば、先行取得も検討していきたい。

地元負担金について

問 農業集落排水事業、バス路線、集会場建設等の公共事業を推進するため、地元負担をどのように考えているのか。

答 農業集落排水事業は、地元準備組合と十分な協議、調整を図り理解を得て着工している。平成八年度からは、着手前に建設負担金、管理利用料等について覚書を取り交わしている。今後も厳しい財政事情を考慮しながら、昭和六十一年に定めた負担割合で建設を推進したいと考えている。

路線バスは、平成四年度に沿線地区との合意により、市負担額の約十一から十五パーセントを地元負担としている。今後、バス運行検討委員会の中で、本市の状況や財政状況を視野に入れ、適正方策を検討していきたいと考えている。

集会場建設は、集落の要望に基づき市等の補助を得て、地元が建設しており、今後も、現在の補助率を適用していきたい。

議案等の審議結果

議案番号	件名	結果
第四十六号	平成十年度大野市一般会計補正予算(第四号)案	原案可決
第四十七号	平成十年度大野市簡易水道事業特別会計補正予算(第一号)案	原案可決
第四十八号	平成十年度大野市農業集落排水事業特別会計補正予算(第二号)案	原案可決
第四十九号	平成十年度大野市水道事業会計補正予算(第二号)案	原案可決
第五十号	大野市ファミリーリゾート休養施設設置条例案	原案可決
第五十一号	大野市簡易水道等使用料金特別条例の一部を改正する条例案	原案可決
第五十二号	大野市健康保養施設建築工事・第一号工事請負契約の締結について	原案可決
第五十三号	大野市健康保養施設建築工事・第二号工事請負契約の締結について	原案可決
第五十四号	大野市健康保養施設建築工事・第三号工事請負契約の締結について	原案可決
第五十五号	大野市健康保養施設建築工事・第四号工事請負契約の締結について	原案可決
第五十六号	終末処理場水処理施設土木工事・第一号工事請負契約の締結について	原案可決
第五十七号	大野市道路線の認定及び廃止について	原案可決
第五十八号	専決処分承認を定めることについて(平成十年度大野市一般会計補正予算(第三号))	承認
第五十九号	平成九年度大野市歳入歳出決算認定について	継続審査
第六十号	平成九年度大野市水道事業会計決算認定について	継続審査

水基本法案に沿った 水行政一本化について

問 ①建設省河川審議会の答申をどう受けとめるのか。

②今後、水行政をどのように取り組むのか。

③外部移入も含め、人材育成が不可欠ではないか。

④公共下水道事業計画を見直す考えはないか。

答 ①本年七月に建設省から、『流域における水循環はいかにあるべきか』について、中間報告がされ、水基本法制定を検討するよう報告がされている。

水基本法の考え方は、今後水行政を進める上で、大変役立つと確信しており、早く法律が制定されることが、大切なことだと考えている。

②地下水位の低下は、各種調査

人事案件

人権擁護委員候補者の推薦に同意

堂東昭子氏 (64歳)
(中野46-41)

結果から、時期により需要と供給の均衡が崩れ発生しており、一年を通して正常にすることが課題となっている。

今後、調査・研究・情報活動の中で、涵養と節水の施策を進めたい。

③時代に即応した効率的な行政組織を構築し、環境に関する関心が高まっている時代背景を踏まえ、人材の外部移入を含め、民間活力の導入や各種研修会・会議等へ職員を派遣し、専門職員の育成を図りながら、施設の管理面と併せ、効果的な水対策が図られるよう進めたい。

④整備は、議会で基本計画を了承し、法手続き等を経て、本年度着工の運びとなっており、現計画で事業を進めたい。

また、建設省は十年ごとに事業評価制度を設け、社会状況の変化等について再評価することになっており、この時点で十分検討したい。

農地の高度利用による 生産の向上について

問 ①農業所得の落ち込みを防ぐため、減反面積の一律配分を見直し、独自の互助制度や特産園芸作物の適地適作といった農業施策を取り入れる必要があるのではないか。

②第二次大野市国土利用計画の農業体験施設の整備計画はどうなっているのか。

答 ①平成八年度より、県の転作面積の配分が一律になり、本市も同様の措置を行っている。

この考え方は、ほ場整備事業の推進により、水田の汎用化が進み、各地域ともほ場条件がよくなり平均化され、集落あるいは地域に傾斜配分をする合理的な基準設定が困難であり、水張り転作などの対応が増えたことによるものである。

今後とも一律配分を基本に、転作の推進を行いたい。

また、所得向上のため、農地の流動化を図り、大規模経営や集落営農の育成を図ることが肝要であると考えている。

今後は、国の動向や県の施策を注意深く見守り、農業所得の向上に結び付く、農業振興のための施策に努力したい。

②計画は、農業体験施設を整備し、都市との交流を促進する方向性を示したが、阪谷地区のスターランド計画以外には、具体的な計画は無い。

スターランドは平成八年度に基本計画を策定し、九年度に用地買収および立木補償が完了している。

また、全体の配置および交流施設等は、地元と協議を重ね、県営中山間総合整備事業で、土

第六十一号	人権擁護委員候補者の推薦について	同意
市会案第五号	義務教育費国庫負担制度の堅持に関する意見書	原案可決
市会案第六号	公務員労働者の賃金早期決定を求め る意見書	原案可決
市会案第七号	道路特定財源の確保に関する意見書	原案可決

質調査を行い、用地整備を実施した。

本年度は、活性化施設の実施設計および体験農園整備を予定しており、来年度に、施設の本体、農村公園、行事広場等を整備し、事業を完了する予定になっている。

亀山公園整備と コミュニティプラザ 構想について

問 ①亀山公園整備は、どうなっているのか。

②商工業の拠点である、コミュニティプラザ構想をまとめ、着工する構想はどうか。

答 ①平成八年に、亀山の現況を把握するとともに環境整備計画策定の基礎資料とするため、環境調査を行った。

また、自然環境への配慮および良好な景観の確保を考慮し、市民の意見を反映した改善計画の策定に取り組んでいる。

②現在、基本的な事項を調整中で、小規模事業者の経営基盤の

地球温暖化の防止に ついて

充実を図ることを目的に、商工会議所が中心となって実施するものであり、今後は、関係機関等の考えを十分反映させて、対応していきたい。

問 国は、市町村に対し、防止策の策定を義務付けるということだが、考え方と取り組み状況はどうか。

答 地球温暖化対策の推進に関する法律案が提出され、市町村は国が定めた基本方針に即した温室効果ガスの排出抑制等のための措置に関する計画を策定することとなった。

なお、本市では本年三月に環境基本条例を施行し、基本方針に地球温暖化の防止も掲げた。平成十一年で、環境基本計画を策定する予定であり、具体的な施策目標や行動指針も、組み入れることになっている。



水政策について

問 ①巢原川からの水を輸送管で市内へ導水できないか、あるいは、その他の山間部より供給できないか。

②電力事業所へ水調達の要望をしたことはあるか。

③北部第三区画整理事業で、ウッドタウンに水をテーマとした構想を取り入れ、イメージアツプを図ってはどうか。

答 ①河川の流水の占用は、河川管理者の許可が必要であり、下流域における水利利用者の調整を図る必要がある。

なお、補償問題等解決すべき点も多く、輸送管の敷設については、投資費用や効果の面からも、建設は困難であると考えている。

また、その他の山間部地域については、ほぼ全域で慣行水利や発電等水利権が設定されており、新たな水利の確保には、既存の水利権者との調整課題があり、非常に困難である。

②発電水利を有する電気事業者との水調整は、河川維持流量の確保に関して、昭和六十三年に建設省と通産省で結ばれた指針に基づき、発電水利権更新時に最大限の河川維持流量が確保で

きるよう要求しており、平成七年の北陸電力西勝原第三発電所水利権更新時には、最大枠を確保している。

今後も、河川維持流量の最大枠の確保ができるよう河川管理者や電気事業者に働き掛けていきたい。

③本年度着手予定の、北部第三土地区画整理事業地区内に優良な木造住宅団地を推進するウッドタウン計画をしており、地域特性に配慮したフォレストタウン構想を考えている。

また、公園緑地計画には、街区公園を三カ所配置し、水と緑をテーマにしたまちづくりを推進していきたい。

地域医療と病院問題について

問 ①市内受診が減少しているのではないか。

また、道路築造等の公共投資と比較すると、福祉・高齢化関連の方が大きな経済効果を持つと言われているが、公共事業のあり方を見直す考えはないか。

②公立による総合病院を建設する場合、中・長期の財政計画を示していたらきたい。

答 ①大野市国民健康保険の過去二年間の五月分受診地調べでは、減少傾向にはないと考えて

いる。

総合病院を願う要求は非常に強く、地域医療の重要な課題として検討しており、医療供給体制の充実を目指したい。

施設で使用する食材や見舞用品等の地元購入、職員等が消費する生活関連物資等の購入拡大による経済効果や施設の建設により、多くの関係職員が必要となるため、雇用拡大等の経済効果は期待できるが、従来型の公共事業も、それ以上の経済効果があると認識している。

②総合病院問題は地域医療施設整備基礎調査を踏まえ庁内で検討しており、今年度中に一定の方向性を示したい。

また、建設については、結論が出ておらず、現段階で中・長期の財政計画を示すことは困難であると考えている。

県立養護学校の分校誘致について

問 ①養護学校の分校誘致は、どのような状況なのか。

②率先した取り組みをどのように考えているのか。

③用地費、建設など市が率先して取り組み、建設の必要性を県へ要望できないのか。

答 ①平成七年に、奥越地域における養護学校設置についての

請願・陳情の審議結果

番号	件名	提出者	結果
請願三号	新ガイドライン関連法案に対する意見書の採択を求める請願	新ガイドライン反対福井県連絡会 代表 北出 芳久	不採択
請願四号	金融安定化特別措置法の廃止を求める請願	新日本婦人の会 代表 福井県本部 辻 照子	不採択
請願五号	すべての階層で減税になる対策を求める請願	新日本婦人の会 代表 福井県本部 辻 照子	不採択
陳情九号	義務教育費国庫負担金制度の堅持を求める陳情書	福井県教職員組合 大野支部執行委員長 柳町 庄泉	採択
陳情十号	公務員労働者の新賃金早期決定に関する陳情書	日本労働組合総連合会福井県連合会 会長 森田 則夫 外一名	採択
陳情十一号	行政区変更についての陳情書	新庄区常任委員会 代表 奥野 耕作	継続審査
陳情十二号	公共保養施設の建設についての陳情書	大野市公衆浴場協同組合 吉森 正幸 外七名	継続審査
継続分陳情十一号	消費税を元の三%に戻すことなどについて意見書提出を求める陳情書	消費税をなくす福井県の会 代表 土肥 春夫 外二名	継続審査

要望を県等に行った。

県は、分校について、地理的

条件等、地域の実情に応じ、多様な障害に対応でき、小学部から高等部まで一貫した教育が可能となるよう、養護学校または分校、分教室として整備することについて検討を行う必要があると、提言している。

なお、対象地域として、奥越地区も想定されており、今年も

引き続き懇談会において検討を進めるとしている。

②県の長期計画でも、必要性を位置付けているが、計画年次が明確でないため、本市も早期に計画が示されるよう、今後も広域的な取り組みを考えている。

③学校の建設は非常に大きな事業であり、県の動向も見守りながら、十分な検討期間が必要であると考えている。

**本願清水のイトヨ保護
事業について**

問 ①文化庁の補助事業を機会に水環境全体を見直すことに役立ててはどうか。

②イトヨの環境に考慮し、水量を増やしてはどうか。

答 ①本事業は、環境やふるさとへの関心が高まり、天然記念物を地域の貴重な財産として見直し、生涯学習や環境教育の場として活用するとともにイトヨ保護の一層の充実を図ることを目的としている。

なお、天然記念物活用事業の実施を契機に、市民一人ひとりが水環境の意識高揚を図るための啓発活動を考えている。

②揚水量は、昭和六十年に地元合意を得ている毎分四百五十リットルを基本としている。

日量では六百四十八トンとなり、水温の上昇や青藻の発生等は起こらないと考えているが、

自然状況等による変化が生じた場合には、地元と相談し、揚水量の確保に努めたい。

**青少年を取り巻く
諸環境の整備に
ついて**



インターネットで情報発信

問 ①小・中学校で使用しているポリカーボネイト製の食器について、調査結果と今後の対応はどのように考えているのか。

②教育現場で、いじめの実態が把握されているのか。

③児童の人権擁護について、教師は、どのような項目を、どのような方法で日頃学習しているのか。

④インターネットを利用した学習の状況はどうか。

⑤学校のスリム化について、現場の受け止め方にずれがあるのではないか。

⑥地域に開かれた学校についても、行政と学校関係者に認識の相違があるのではないか。

答 ①現在、ポリカーボネイト製食器は、小学校十校、中学校三校で使用しているが、八月に県が実施した検査結果は、すべての検体においてビスフェノールAは検出不能であった。

今後の対応として、安心できる給食を目指し、食品衛生法よりもさらに厳しい基準の溶質検査を本市独自で実施したいと考えている。

②いじめはあるという認識のもと、学校との連絡を密にし、状況把握に努め、問題行動すべてについて総合的な調査も行い、取り組んでいきたい。

③手引書を作成し、いじめの形態や指導経過等の豊富な事例も載せて、全教員に配布し、研修資料として活用している。

また、教育相談体制を充実するため、生徒指導主事会、輔導連絡協議会等を通じ、より深い連携を進めたい。

④インターネットを学習で十分に活用するには、困難な面もあるが、教師も操作になれ、活用を図っていくよう努めたい。

ホームページを開設し、これを核に各学校へインターネット利用の支援を進めるとともに、電子メール等を活用した職員への支援等の整備も大切であると

考えている。

⑤学校行事精選等のスリム化は大変重要な課題であり、本市でも、検討委員会を発足し、本市で学校との間にずれが生じないように取り組んでいる。

⑥開かれた学校づくりを進めるため、授業で地域の人を外部講師として招く取り組みを実施している。

学校教育を見直す必要性は十分認識しているが、開かれた学校づくりの理解度は、高いとはいえない。

今後、学校教育において構想を明確にし、保護者や地域の人々を交え、共通理解と環境の整備に努力したい。

都市景観条例について

問 ①地域指定に対し、市民の意見を反映してはどうか。

②条例に対する、意識高揚等をどのように考えているのか。

答 ①都市景観条例は、特性ある景観を保全し、美しいまちづくりを推進するものであり、歴史的な雰囲気を残す建物や地域等について、景観重要建築物、景観形成地区、景観スポットに分けてある。

特に、後世に残すことが重要な景観形成地区の指定に当って

は、地区住民の意見や意向を開き、都市景観審議会に諮り、決定していきたい。

②市民の意識高揚は大変重要と考えており、優れた建築物・団体などには、都市景観賞の表彰も継続して実施し、また、わく湧くお届け講座・討論会・講演会等により、啓発活動を進めていきたいと考えている。

**健康保養施設建設事業
について**

問 財政的に厳しい状況だが、健康保養施設を先行しようとしているのはなぜか、また、延期は考えられないか。

答 本市の財産である水をテーマとした水に親しむ文化の拠点とするともに、将来は中部縦貫自動車道や東縦貫道等の整備により、本市の玄関口になるため、新しい顔として、すべての市民が誇れる特徴ある施設として整備するものである。

なお、財政的には厳しいが、心の豊かさやうるおいが求められる今日、市民が生き生きと健康で楽しく安らぎのある生活を送るため、水を保養やレクリエーションに生かす文化を築き、気軽に楽しめる施設の整備を目指し、計画どおり建設に着手したいと考えている。

**大野地区消防組合議会
議員の補欠選挙**

当選

野田幾久代 議員

委員会報告

各委員会における協議事項、意見、要望等の趣旨について、それぞれ委員長よりの報告は次のとおり。

建設常任委員会

○西部アクセスについて

有終西小学校の問題については協議を重ね、早急に計画路線を示し、事業主体の決定を行い地元への理解を求められた。

なお、諸問題の解決に向けては、事務レベルではなく、市長の政治決断により、早急に方向性を示されたい。

○公共事業について

工事発注については、地元業者育成に配慮し、できる限り地元企業を優先されたい。

また、地元業者の技術力向上の面からも、指導、育成に努められたい。

総務常任委員会

○大野市ファミリーリゾート休養施設設置条例案について

管理運営面に関しては、受託者となる六呂師高原振興会と慎重な協議を重ね、通年型の施設として、市民および市外の利用者に親しまれるような施設を目指し、鋭意努力されたい。

○陳情十一号 行政区変更についての陳情書

産業経済常任委員会

理事者は、側面的な支援と調整は必要ではあるが、今後、各地区が慎重に協議を重ね、相互の意見を聞きながら、最善の方向を見出し出す必要があるとして賛成多数で継続審査とした。

○農業集落排水事業について

公共下水道・農業集落排水事業との間、また農業集落排水事業の各処理区間において、将来の受益者間での公平性が保持されるよう検討されたい。

○公社営畜産基地建設事業について

たい肥製造センター建設計画策定時における所期の目的に沿うよう努力され、これまでの事業の反省点を十分に踏まえて、これからの新たな事業の円滑な

執行に努められたい。
○「スターランドさかだに」について

現在、管理・運営主体が定まっていないうえ、事業化に至るまでの経過も十分に踏まえて、早期に管理・運営主体を決定されるよう、地元にも強く働き掛けられたい。

○八月の集中豪雨による災害について

被災者のために、国の激甚災害の指定が受けられるよう、理事者・議会が一体となって働き掛けるとともに、理事者においては、できる限りの対策に努められたい。

中部縦貫自動車等整備促進特別委員会

九月定例県議会で知事の提案理由説明において、勝山市域で

本年度内に建設省の本工事が着手されることとなり、本線の整備の弾みになると考えている。
また、本年十一月には、シンポジウムが開催され、市民および関係者等の意識の高揚が図られるよう期待している。

なお、建設省の地元説明会に關しては、地元および国・県との調整を図りながら、早期に説明会を終えて、沿線集落の了解を得て、本年度中に路線測量等に入るべく最大限の努力をされるところにも大野インター線についても、国・県と早期に調整を図り促進に努められたい。

今後も、本事業促進に向けて理事者のさらなる努力を支援しながら、粘り強く継続して所期の目的達成のために取り組んでいきたい。



議会日誌

- ◆8月
- 5日 中部縦貫道路建設促進期成同盟会 総会 (東京)
- 5~7日 友好市町交流会 (北海道三石町)
- 11日 大野・勝山広域農道促進期成同盟会 通常総会 (勝山市)
- 11~12日 総務常任委員会行政視察 (黒部市)
- 13日 大野・池田線建設促進期成同盟会 (池田町)
- 18日 議会運営検討委員会
- " 三市町村議長・副議長会議
- 19日 国道157号整備促進期成同盟会 定期総会 (根尾村)
- 20日 子供サミット事業 (小学生議会)
- 21日 三市町村親善ソフトボール大会 (真名川憩いの島)
- 31日 総務常任委員会協議会
- ◆9月
- 2日 会派代表者会議・議会運営委員会
- 4日 大野・勝山地区広域行政事務組合 議会臨時会
- 21日 秋の交通安全運動街頭呼び掛け
- 22日 議会運営検討委員会
- " 集中豪雨に伴う陳情 (北陸農政局外)
- 24~25日 集中豪雨に伴う陳情 (東京)
- 28日 大野地区消防組合議会臨時会
- 30日 公共下水道終末処理場安全祈願祭
- " 土地開発公社理事会
- " 神奈川県秦野市議会行政視察研修 受入れ
- ◆10月
- 5日 県議会議員と語る会
- 6日 健康保養施設建築工事安全祈願祭
- 7~9日 県市議会議員会視察研修 (山形県天童市)